

新しい風

倉敷市立琴浦南小学校
平成28年3月25日
No.36

春うらら

今にもこぼれ落ちそうなほど、丸く、大きくなっているのは正門前の桜のつぼみです。これから迎える開花に向けて、夏は多くの葉をつけ成長し、秋から冬には、葉を落としエネルギーをためて春に備えています。こうして考えると、桜はたった数日間のために年間300日以上も準備をしていることとなります。開花を喜びのと同じようにそれまでの経過にも思いを向ければ、一層その美しさに魅かれてしまいます。



子どもたちは、本日それぞれの学年の修了式を迎えました。今日のこの日は突然来たものではありません。桜と同じように、4月から努力を重ねて学習に取り組み、周りの友達との関わりの中で様々なことを経験し成長の糧としてきたからこそこの日を迎えられたのです。大病をせず、事故に合わずに過ごせたことも決して当たり前ではありません。素直に喜びたいです。保護者のみなさま、パトロール隊をはじめとする地域のみなさま、多くのご支援をいただきありがとうございました。

昨日、職員室に一人の男児と担任が来ました。少しうれしそうに、少し照れくさそうに二人は栄養教諭の元へ行きました。

前日22日(水)、今年最後の給食を食べているときに、このようなやりとりがあったそうです。

「なあなあ、今日は最後の給食じゃから、作ってくれた人にありがとう言おうや」

「ほんとじゃ、今日が最後じゃなあ。」「山田先生に言わんといけんなあ」

その話を聞いた栄養教諭は満面の笑みです。もちろん子ども本人も担任も。まわりにいた職員もみんなにっこりです。二人が出た後の職員室には、暖かい春の日差しがさしこんでいました。

麗

うらら

「うら」は心を表す古語です。この「うら」からたくさんの言葉が生まれました。「占い」「羨む」・・・そして、この麗らも「うらうら」が縮まったものと言われています。心の中に何も無い、心そのまま。これがうららの元の意味です。気にかかることも、隠しごともないさわやかな状態。まるで、雲ひとつない青空のように本当にのびやかな気持ちです。その心地よさに、「麗」という字をあてました。春は心を開放して、きつとこのような気持ちになりやすいのでしょうか。

今年4月、琴浦南小学校に吹き始めた新しい風は、子どもたちの表情を変え、交わす言葉を変え、大きなうねりとなって学校を変えていきました。こうした中、春の息吹があふれる今日、無事、修了式を迎えられたことがとてもうれしいです。

「春うらら」

充実した1年を終えた子どもたち、担任の先生、学校の職員、そして、今日も下校を見守ってくださる安全パトロール隊のみなさま、最後は子どもたちを迎える保護者や家族のみなさま。

266名の子どもたちに関わったすべての方が、今日も明日もあさっても——
このような気持ちですごせますように・・・。

1年間のご支援ご協力、本当にありがとうございました。

